

「目標を突破する実践プロジェクトマネジメント」（中経出版）  
成功事例



「サバよみ虫」マスコット受賞：中学2年生 Cさん 及びその家族

適用事例：学年で10番以内に入るぞ！プロジェクト

・きっかけ

3月に期末テストがあるという話をお父さんにしたら、ちょっと面白いやり方で勉強の計画を立ててみないかといわれました。テスト勉強をプロジェクトと考えて計画を立て、進み具合をチェックしてみようということでした。

わたしは面白いことや新しいことが大好きなので、興味虫がムクムクとわきあがってきました。

・チャレンジ

プロジェクトということがよく分からなかったのですが、人間には6つの問題行動があって、それが目標を達成させる邪魔をしているという話を聞きました。

1. サバ読み

余裕があるとなぜか安心してしまう・・・あるある

2. パーキンソンの法則

貯金がたまらないいつも最後にばたついてしまう・・・あるある

3. 学生症候群

いつものわたしだ・・・あるある

4. 遅れの伝播

あたりまえやん・・・あるある

5. 早期完了の未報告

お母さんの手伝いをして早く終わったら「次これして」ってすぐ言われるし  
・・・あるある

6. マルチタスク

音楽聞きながら、テレビ見ながら勉強・・・あるある

え～っ、これって全部私のこと??? という感じでした。

もうひとつ「あっそうだな」と感じたのは「あと何日で終わる?」という考え方です。

英語の勉強にしても、はじめのページからここまで終わったという満足感で進んでいたのですが、結局最後のページまで終わりきれなかったということがよくありました。それをあと何日で最後まで終わるか考えると、いいペースで進みそうでした。

わたしが英語の勉強は大体3日くらいと言うと、「必死で頑張ったらどれくらいで終わる？」と聞かれ、「2日かな・・・」と答えると、お父さんが大笑いして「それがお前にまとわりついているサバ読み虫だぁ」といいました。

いつも自分の安心感のために持っていた余裕を最後にまとめておくと、途中つまずいて遅れても大丈夫だし、できるだけ使わないようにしてみようという気持ちにもなりました。ひとつひとつの勉強の中で持っていた余裕はいつの間にか使い果たしてしまっていたのに、まとめてみると意外といっぱいあるんだなぁと思いました。

#### ・結果

テストの結果は残念ながら10番以内に入れませんでした。(でも英語と社会は目標より上を行きました！)

反省点は、一人で頑張ろうとしたこと・・・分からないことや不安なところをお母さんやお姉ちゃんに聞きながらやればよかったのですが、そのまま飛ばしてしまっていました。とりあえず今回の目標で達成基準のうち2つはクリアしたので、次のテストではみんなに協力してもらって全部クリアするように頑張りたいと思っています。

#### ・何が変わったか？

お父さんと一緒にODSCという目標を作ったのですが、期末テストの目的、成果物、成功基準と、こんなこと考えたことなかったなぁ、惰性でやってたなぁと思いました。

勉強やテストという目標を立てると、ついつい生真面目に考えなければと思うのですが、楽しい目標にしようといわれて考えていくとテストの日がまちょおしくなりました。いやなことは早く終わればいいなという気持ちから、目標を達成している自分に早くなりたいなという気持ちに変わっていました。

自分ひとりで行うより、誰かと一緒に考えて一緒に楽しく感じるほうが好きなのでわたしにはぴったりのやり方です。

#### ・感想

これがなんとかチェーンというやり方だと教えてもらったのですが、お父さんはいつも出張で家にいないので、この計画を一緒に立てられたことでとても楽しく思いました。

このやり方は学級会にも使えそうです。

いつもはわたしたちに適切なことばかり言っているのですが、少しだけ見直してやろうかなという気持ちになりました。

今回、楽しくなるような目標を作ろうとなったときに一番初めに入れた目標が「サバよみ虫がほしい」でした。もらえるという話を聞いたときには思わず大きな声で「やった～！」と叫んでしまいました。

最後に、お父さんは面白そうな仕事をしていることが分かったのでちょっとほっとしました。

・親から一言二言三言

サバよみ虫をいつも子供に見せびらかしていたのですが、今回いただけるということでウサギのように飛び跳ねている中学 2 年生の娘を見て、親としてとてもうれしく感じています。

思いつきでやらせてみたプロジェクトですが、会社で行なうプロジェクトと本質的には同じだということがわかりました。

必ずしも目標を達成できたプロジェクトではなかったのですが、少なくとも前回のテスト結果よりは良くなっていました。これは目標が大きければ大きいほど、楽しければ楽しいほどやる気が出て現状よりもよい結果を生み出すということにつながっているのではないかと思います。

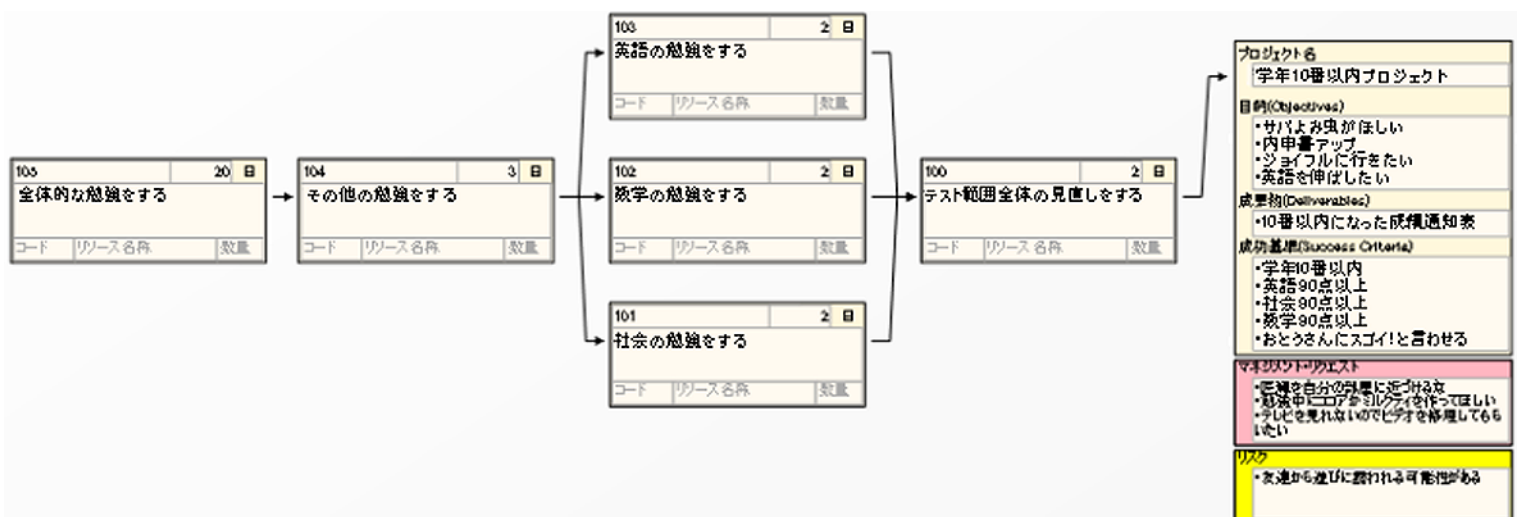
しかしながら反省点もあります。

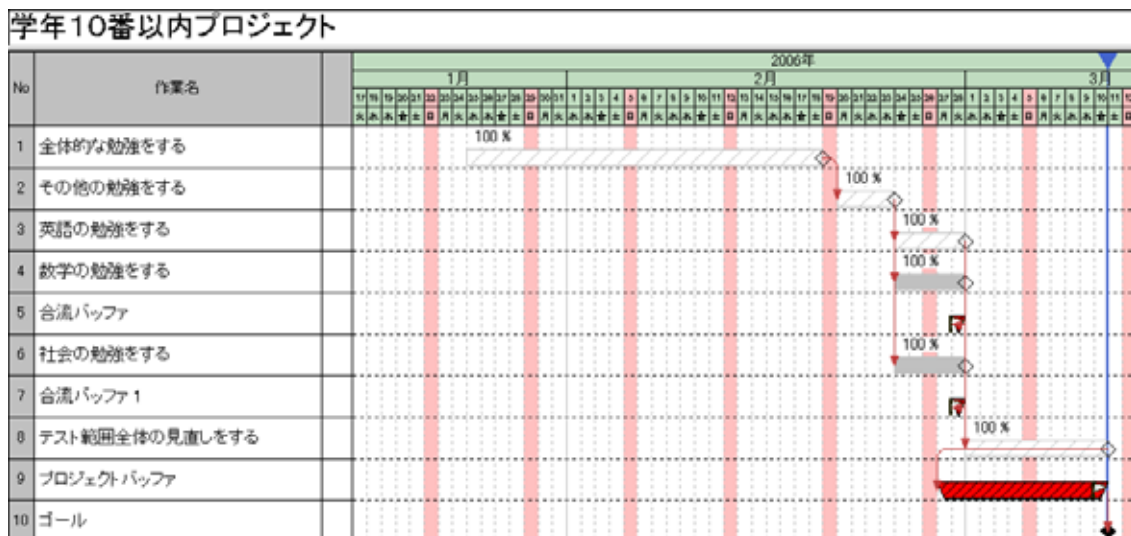
子供が書いていますように、コミュニケーション（周りの支援）が足りなかったということです。次回のテストではお互いに聞き、教える、一緒に目標を突破するという喜びを感じられるプロジェクトが動いていることと思います。

家内から達成できなかった原因のひとつに「お父さんの子供だからネ」という言葉もあったのですが・・・

プロジェクト、TOC、CCPM という意味がほとんど分からないまま行なっても何とかなるというのは本当に驚きです。

また、頑張っている子供を見て俺も頑張らないとなぁと思わせてくれた娘に感謝です。





著者からの感謝の言葉

素晴らしいの一言につきます。こんなに嬉しい事例はありません。CCPMはコミュニケーションのツールであると本で書いておきながら、親子のコミュニケーションにまでも活用されるとは、驚きです。本当に嬉しいです。心から感謝します。10番以内になれるようにがんばってください！応援しています。